

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091900045		
法人名	株式会社 コスモピア 公和苑		
事業所名	グループホーム 愛ほ一む	ユニット名	もみじ
所在地	福岡県田川市大字夏吉334番地15		
自己評価作成日	平成24年7月9日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年7月20日	評価結果確定日	平成24年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛ほ一むは、新建築物であり設計から管理者が携わり、入居者が快適に生活が出来るように配慮しておりこだわった造りになっている。また、職員に対しても、休憩時間の確保や自主性を尊重した運営を行っている為、職員の定着率は高い。職員が力を入れている事のひとつにリハビリがある。一人ひとりの状態にあったメニューで日々取り組んでおり入居者の機能低下の防止・維持に努めている。御家族面会時は、積極的に声掛けを行い入居者の状態報告や近況を伝え安心をして頂くと共にコミュニケーションの充実を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護事業を展開する法人としての実績や経験を活かし、高齢化率の高い地域のニーズに応えるべく、昨年新たに開設されたホームである。共用部分はゆとりある広さが確保され、ユニット間には談話スペースや医務室も設けられる等、快適さや機能面での工夫が随所にみられる。また、電話の対応や訪問時の様々な場面からも、接遇やマナーを重視する職員教育が伝わり、心地良い印象を受ける。地域性を共有できる入居者の方々も多く、地域の商店街の馴染みの店で、こだわりの品を購入したり、冠婚葬祭への出席や信仰の継続等、これまでの暮らしや関係性の継続に向けた積極的な支援も行われている。また、入居者の心身機能の維持、活用に向けた取り組みや、家族機能の活用に向けた働きかけを行い、その人らしさや生きがいある暮らしの実現に結び付けている。かかりつけ医や医療機関との密な連携体制も築かれており、「自分らしく生きること」や「住み慣れた場所」をキーワードとする理念の実現に向けて、入居者、家族の安心できる環境作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重を大切に、家庭的な環境の中で、家族としてのお世話をする」という独自の理念に加え、地域密着型サービスの主旨を踏まえた内容(地域社会の一員として生活する事を支える)の倫理綱領を掲げる。	開設時に、地域密着型サービスとしての基本理念が作成されている。各職員は、社員証とともに理念を携行し、また、ミーティングの中で振り返りの機会を持つ等、共有や実践につなげる取り組みがある。ホームとして、基本方針、及び「笑顔の心の10ヶ条」を定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々に早く馴染んで頂けるように、積極的に地域の行事参加や日常生活の中で地域の一員として積極的に交流が図れるようにし日常的に付き合いをしている。	区長や組長等、地域代表者との意見交換や情報共有を通じて、地域との関係性を積み重ねている段階である。地区の消防訓練とホームの避難訓練実施を、相互の働きかけの中で行うことも検討されており、今後の活動展開が期待される。運営推進会議への地域からの参加が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では取り組んでいないが、今後 取り組む予定である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施。参加者は、法人理事、区長、老人会会長、民政委員、家族代表、入居者代表と多岐にわたる。運営状況や今後の取り組みについて報告がなされており、出された意見は、今後の苑内、及び地域活動に活かす様に努めている。実際、多様な情報を得る事が出来ており、多くの地域行事参加へ繋がっている	入居者、ユニットごとの家族代表、区長、組長、公民館長、地域住民代表、田川市職員等、多彩なメンバー構成にて、定期開催されている。ホームからの状況報告や広報の配布、災害避難場所の確認等にて意見交換が行われている。地域情報を共有する機会でもあり、現在、近隣の他法人グループホームとの相互参加に向けて働きかけが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所のベットの空き状況などを連絡したり、サービス提供の質の向上の為 地域交流が図れる行事への参加ができる取り組みなどを密に連絡を取りながら協力関係が築ける働きを行っている。	運営推進会議には、田川市職員の参加を得ている。また、日頃から、市担当者やケースワーカーとの顔の見える関係作りを行い、連携を図るよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関は押すと開閉する自動ドアである。職員は、安全面を考慮し、見守りの徹底に努めている。また各ユニット入口には、チャイムを設け開閉する度に鳴るようになっている。	行政の指導により、ユニット入口にはチャイムが設置されているが、日中の施錠は行われていない。ドラッグロックやスピーチロックへの意識も高く、家族との共有認識を図りながら、環境整備への配慮や寄り添うケアの実践により、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を開催し虐待に対しての意識を高めると共に、御家族にも協力をして頂き虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 愛ほ一む

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会を開催し職員の理解を高めると共に、御家族と利用者本人の日常生活での必要性を話し合い、現場での実践に活かしている。	権利擁護に関する制度については、入居時に資料をもとに説明を行い確認印をもらっている。現在、制度を活用している方はいないが、勉強会の実施により理解を深め、また、法人としての活用実績も踏まえ、必要時には活用できるよう体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の熟読、不安・疑問点は職員が尋ね質疑応答が、し易い雰囲気を作り十分な説明を納得・理解して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族は、毎月。利用料の支払いに訪れる仕組みになっている為、この機会を活用し、苦情や相談、意見の収集に努めている。また、意見箱を設置している。苦情や意見などが寄せられた場合は、その都度、職員間で話し合いを行い対応している。	家族が来訪する機会も多く、家族会の開催も予定されている。また、記録の開示や来園者名簿の作成等、積極的な情報共有を図りながら、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングとは別に意見交換会を設け意見・提案を運営に反映させている。	ユニットごとに、全員参加のミーティングを行っている。開設して間もないため、風通しの良い職場環境作りに取り組み、積極的に協議を行いながら、運営への反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者・職員の勤務態度や努力を給与条件・職場環境へ反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の雇用にあたって、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。管理者は、職員の自主性を重んじると共に、働きやすい職場環境作りにも努めている。休み時間に於いても、きちんと確保されている。	職員の採用にあたっては、笑顔や人柄、社会人としての資質を重視し、年齢や性別による排除は行っていない。休憩室も2ヶ所設けられ、希望休の取得、産休の取得や復帰に向けた配慮等、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。BBQ大会やボーリング大会を企画し、親睦を深めている。資格取得や研修参加へのサポートを行い、積極的にスキルアップを支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理綱領には、人権に関する項目が列挙され、職員に周知されている。また、「笑顔の心の10カ条」を目標に掲げ、これを実践する中で、人権教育、啓発活動を実践している。	倫理綱領は目に付きやすい場所に掲示され、職員は理念とともに携行している。内外の研修参加を通じて、様々な視点から人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 愛ほーむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症介護実務者研修」を始め、社会福祉協議会主催の研修には積極的に参加している。また毎月、苑内で独自に研修・勉強会を実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との勉強会を不定期ではあるが実施し、その後 交流の場を設け相互の関係を築きレベルアップを図りサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント段階で家族同伴にて要望等を伝え易い環境をつくり本人の安心確保に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談・アセスメントの段階で要望や不安・困っている事を伝え易い環境を作る事により、良い関係づくりを築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせた支援計画を見極めたサービスを提供し、その時に応じた対応・その他のサービス利用も視野に入れながら対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	倫理綱領には、人権に関する項目が列挙され、職員に周知されている。また、「笑顔の心の10カ条」を目標に掲げ、これを実践する中で、人権教育、啓発活動を実践している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は、必ず面会をして頂くようお願いをしました。近況報告させて頂き現状での状態を把握してもらいながら職員と共に情報の共有を図り本人を支えて行ける関係作りをしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や、家族との外出で馴染みの場所へ行けるようにしており関係が途切れる事のない様にしている。	地域の伊田商店街でのこだわりの品の買い物や、通い慣れた理・美容室の利用、信教の継続や冠婚葬祭への出席、自宅の手入れ等、これまでの関係性の継続に向けた、個別性ある支援が行われている。また、近隣から入居されている方も多く、地域性を共有しやすい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクや個別でのレク等を行い孤立しない環境を作り利用者同士が支え合いが行えるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて相談を受けたり本人・家族の経過をフォローしたりと支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接時に、本人や家族から希望や意向、生活歴を聴取している。困難な場合には、家族からの情報や生活歴などを元に本人本位に検討している。	入居時の情報収集や、日常の中での言葉や表情、行動等から、思いや意向の把握に努めている。地域性を共有しながら、馴染みの関係性の継続に向けた積極的な支援が行われている。	アセスメント様式や日々の記録には、生活歴やライフスタイル、心情の変化等の記載は少なく、職員の新たな視点の確保や気づきの共有に向けて、様式や内容の充実が期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時に本人もしくは、家族から生活歴や暮らし方などを詳しく聴取して把握出来るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の記録を毎日、行い職員同士で把握出来るようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・ツールは「包括的自立支援プログラム」を活用している。これをベースに本人・家族から聴取した思いや生活歴等、さらに寄せた「認定調査」の結果を反映させて、本人や家族と話し合いながら本人本位の介護計画作成に努めている。	本人、家族の意向や役割を計画に反映させ、個別性ある介護計画が作成されている。定期のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性を検討している。日々の記録には客観的情報が詳細に示されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録にて職員間で情報を共有し、また、気付いた点等を介護計画に反映している。		

福岡県 グループホーム 愛ほ一む

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて、訪問歯科医の口腔ケア(3回/週)や訪問理容が利用できる。墓参りや昔 暮らした場所・馴染みの店を訪れたり、以前の住居を手放したくない方には、区費支払いや掃除などの支援を行い、また、入院時には、お見舞いや洗濯物を撮りに行く等の支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今 現在は実行していないが、今後 取り組む予定である。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診支援を職員付き添いのもと行っている。また、協力病院の往診や訪問看護を活用しながら、一人ひとりの意向や状態に応じた適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の意向による、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。また、複数の医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられる体制を築いている。医務室も設備され、往診記録や医師の所見を共有し、日常のケアに活かしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取り組み、訪問看護師に気付いた点などを相談し適切に対応し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、職員が、お見舞いに行き病院の看護師から状態報告を受けたりしており、病院受診の際に良い関係が作れるように取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重要事項説明書」に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を明記し、本人や家族、主治医と相談・情報交換を行っている。また、訪問看護や往診医療と連携を図りながら支援できる体制を整えている。	入居時に、重度化対応・終末期ケア対応指針をもとに説明を行い、意向確認、及び同意を得ている。開設して間もないが、充実している医療との連携体制の中で、1名の方の看取りを経験している。今後も、馴染みの関係性や場所を大切に捉え、本人本位の支援を行っていく意向である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を開催・実践訓練の開催を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、訓練を実施予定しており1回目の訓練が5月に終了している。消防署立会いのもと消火・避難・救出の指導も受ける。マニュアルも完備し被災後まで想定した内容となっている。	消防署の立会いも含め、昼夜を想定した年2回の避難訓練が予定されている。また、毎月、避難経路や火元について、自主点検を行っている。水消火器を使用した消化訓練の際は、運営推進会議メンバーの参加、見学を得ている。今後は、地域の消防訓練との連携を視野に入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的なかかわりの中で言葉や支援内容がプライバシーを損ねるものになっていないか、注意を払い話し合いながら支援している。また、個人情報の取り扱いについても、保管場所、マニュアルについても徹底している。特に、マニュアルについては、法的根拠、事例、日常業務での留意事項等が明記している	職員の募集の際には、言葉かけや対応、笑顔や挨拶等を重視した採用を行っている。実際に、接遇やマナーを大切にされた職員教育が行われていることは、職員個々の様々な対応の場面からも伝わってくる。個別の時間の流れや居場所についても、意識を持った支援が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定が行えるような声掛けを行ったり意思表示が出来る環境を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安となるような大まかな日課目標はあるが、一人ひとりの希望や習慣を尊重し、自由に過ごせるよう支援している。団体行動への参加を促す事は行わないよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や恰好品の買い物へ職員と共に行き本人好みの衣服等を購入し、その人らしいお洒落が出来るよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付け等、出来そうな事を判断し、担ってもらっている。1日と15日には赤飯を出したり、器にこだわり食事が楽しみな事になるよう支援している。	地域の商店街を利用し、嗜好や季節感に配慮された献立を作成している。また、器も吟味され、視覚からも「食」を楽しんでいる。いりこの頭取りやお茶パックの用意、後片付け等にて、個々の力を発揮してもらっている。職員も同席し、和やかな食事風景があった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望や好みを踏まえ、栄養バランスについても配慮しまた、刻み等、一人ひとりの状態に合わせて内容で提供している。摂取量についても一覧表にて把握し、すいぶんとも併せて、十分量の確保に努めて支援している。		

福岡県 グループホーム 愛ほ一む

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアの声掛け・誘導を行い口腔内の衛生保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に個人の能力に応じて排泄の自立支援に取り組んでいる。	排泄表や水分摂取記録を作成し、個別の状況や排泄パターンの把握に努めている。さりげない声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な勉強会を開催し便秘・便秘の原因などを把握しここにに応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月・火・金・土となってはいるが、本人の希望があれば入浴日以外でも入浴を行う事が出来る。ゆったりと入浴が出来るよう十分な時間とスペースを確保している。	ある程度の入浴スケジュールは設定されているが、シャワー浴の実施も含め、希望や状況にあわせた柔軟な対応に努めている。脱衣所や浴室は十分な広さが確保され、入浴剤や好みのトリートメントの使用等にも対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様にはあるが、日中、昼寝をして頂いたり夜間も良眠して頂けるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の個別ファイルに処方箋を挟んでおり職員がいつでも閲覧できるようにしており、また、不定期ではあるが薬の目的・副作用などの勉強会を開催している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや、掃除、洗濯物たたみ等、日常生活の中で一人ひとりの力や生活歴を發揮できるような場面作りに努めている。また、入居者の意向を踏まえ、ドライブや買い物、外食を行う等の楽しみごとの支援も行っている。		

福岡県 グループホーム 愛ほーむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じて散歩や、買い物へ行く等の支援を行っている。また、天気の良い日等は、苑内敷地にておやつを食べたり戸外へ出掛けられる様努め支援している。	指定の店までこだわりの買い物に出掛けたり、花を買いに園芸店まで散歩がてら出掛ける等、個別の意向や目的を持った外出支援が行われている。花見などの季節感を味わえる外出や、道の駅や大型ショッピングモールでの外出・外食等、個別の移動の配慮を行いながら、積極的な外出支援を行っている。日常的にも、敷地内でお茶を楽しんだり、草取りや植栽を共に行う等、外気にふれる機会も多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方は、小遣いで色々な物を買って美味しい物を食べる喜びの中で支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも手紙・電話を掛けたい時に掛けられる環境作りに努め支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者が設計から携わり、随所に居心地の良い環境作りに取り組んでいる。館内は全てバリアフリー(トイレは「ふくしの街条例」に基づく)で、季節の花や入居者作成の作品を飾り居心地の良い空間を作れるよう工夫し努めている。	ユニット間には談話スペースや医務室が設けられ、トイレや浴室、廊下はゆとりある広さが確保されており、共用部分は居心地の良さに配慮された機能的な造りとなっている。各所のソファやマッサージチェア等、寛ぎの場所も確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中 穏やかに過ごせる場所・居室であったりホールであったり落ち着いた空間を工夫し支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に広く、ベットやタンス クローゼット テレビを完備しているが、入居時に使い慣れた物や好みの物を持参して頂き、本人が少しでも居心地良く過ごせるよう支援している。	各居室には、タンスやテレビが備え付けられており、ソファや椅子、机などが持ち込まれている。壁には大切な写真も飾られており、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の目印、トイレの目印など工夫を行いまた、個人の能力に応じて出来る事は極力 取り組んで頂くよう工夫している。		